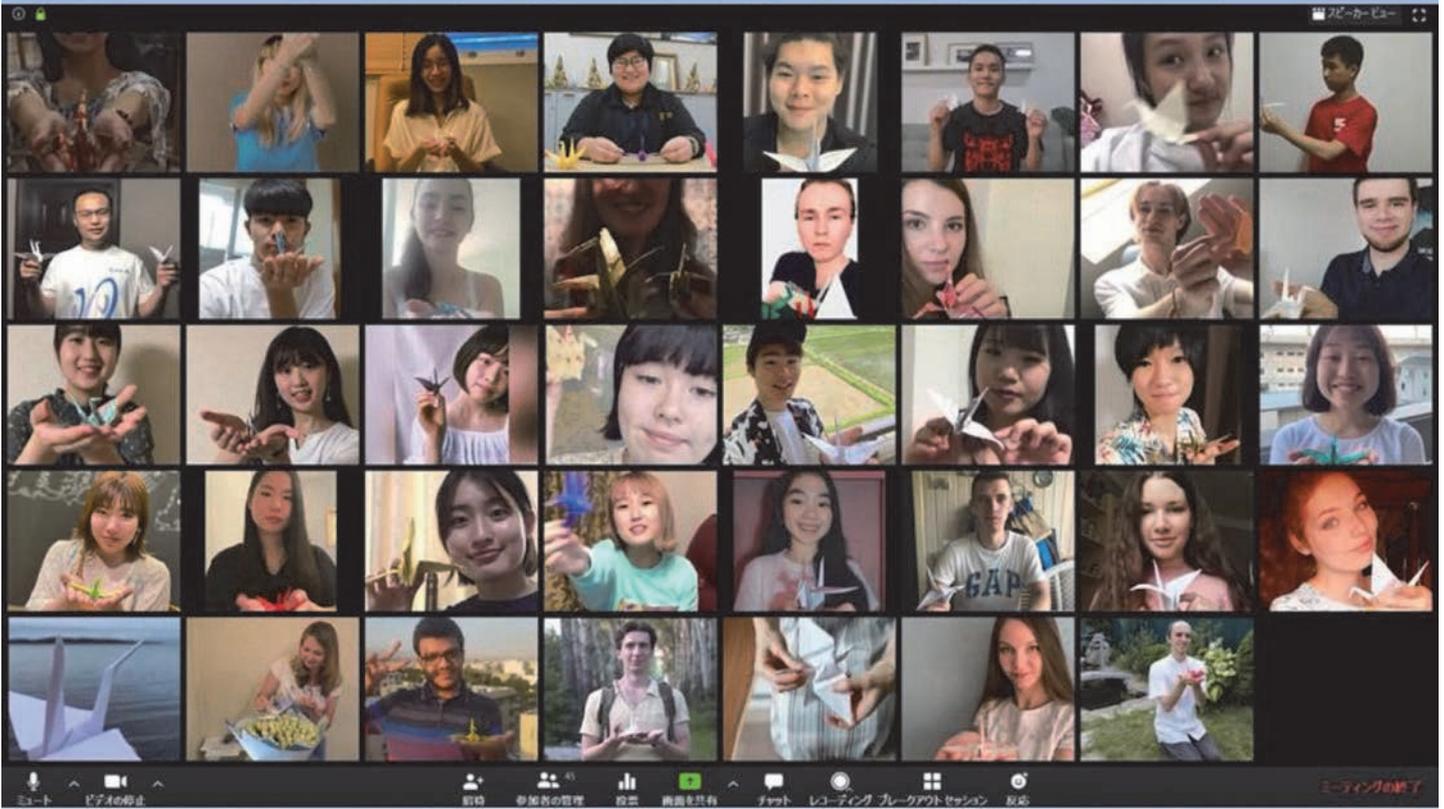


私たち9か国11都市の青少年70名は、世界平和の実現に向けて様々な活動を行っています!

Let's embrace diversity for a better world



International Youth Conference for Peace in the Future 2020 Hiroshima

啓発動画：多様性に寛容になろう、よりよい世界のために

青少年国際平和未来会議2020ヒロシマに参加した世界各都市の青少年が、「多様性に寛容であれば、世界平和につながる」という願いを込めて動画作成に取り組みました。参加者が作った折り鶴には、様々な色、形、大きさがあり、それを一人一人の多様性に例え、多種多様な折り鶴が存在しても、願いは一つであることを表現しようとしています。また、世界で起きている様々な問題（環境・人権やCOVID-19等）に苦しむ人々が安全に、健康に暮らし、幸せでありますように折り鶴に願いを託しています。URL <https://youtu.be/40WkKDZZBRI>



世界中、それぞれの街に住む私たち
生まれ育った国、文化、習慣、歴史、
性、目の色、髪の色、肌の色、教育、
言語や考え方は一人一人異なるが、
喜び、怒り、悲しみ、楽しみ、
感じる心は共通している。

平和への祈りを込めて鶴を折る。
色や形、大きさが違って、
願いは同じ。

一人一人違って、願いは同じ。
大切なのは、互いに思いやること。

ときには意見や方向性が
行き違うこともある。
それはそれで構わない、
そのときは、あなたを受け入れ、
しっかりと向き合おう。
そうすれば、もっとあなたと
分かりあえるかもしれない。
そうすれば、もっとあなたを
大切に思えるかもしれない。

多様性に寛容になろう、
よりよい世界のために
すぐ隣にいるあなたも、
遠くにいるあなたも、
あなたやあなたの家族が、
あなたの町で、
安全に、健康に暮らし、
そして、幸せでありますように。

その思いを折り鶴に託して

青少年国際平和未来会議とは

広島市の姉妹・友好都市等世界の国々の青少年と本市の青少年が互いに世界平和について考え、意見を交換しあうことにより、友情と相互理解を深め、広く世界の国々の青少年に核兵器廃絶と世界恒久平和を願う「ヒロシマの心」を伝え、次代を担う青少年の世界平和への意識を高めるとともに、グローバル人材の育成を図ることを目的としています。2005年から広島市と各姉妹・友好都市等が毎年交互に開催都市となり青少年国際平和未来会議（以下、未来会議）を実施してきましたが、コロナ禍の影響により、2020年のホスト都市であったボルゴグラード市での開催は延期されることとなりました。各都市青少年との継続した平和活動を推進するため、2019年広島市で開催した未来会議参加者に呼びかけ、オンラインでつながり、コロナ禍において何ができるかについて話し合いを続けています。

What is IYCPF for you? :)

world peace
a community
fun
food for thought
happy memories
a place to connect
big effect in my life
chance to see the world
connecting together
interactive
memory
home
harmony
peace
new friends
educational



●参加都市9か国11都市

広島市の姉妹・友好都市（ボルゴグラード市、ハノーバー市、重慶市、大邱広域市）
その他の都市（バンコク都、成都市、グリニー市、モンティルパ市、
サントペテルブルグ市、テヘラン市）

●オンライン会議

オンライン会議形式で世界各都市と5回にわたり、交流や議論、啓発動画の作成に取り組んできました。会議は青少年が自ら主導することとしており、主に広島市メンバーが、進行役を努めました。ハノーバー市や成都市のメンバーが進行役となった回もありました。



1. 初めてのオンライン会議（2020年6月20日）

広島市の未来会議参加経験者が有志で集まり、世界各都市の青少年と共に行動を起こすため、何に取り組むかについてアイデアを出し合い、「平和の実現」や「世界が直面している問題の解決」に向けて、お互いを認め、思いやる心や世界平和を願う心の大切さをテーマとする啓発動画を作成し、これをより多くの世界の若者たちに発信することを海外都市メンバーに対し提案することを決めました。

2. 世界各都市の青少年に活動を提案（2020年7月4日）

8か国10都市からの参加者45名によるオンライン会議で、広島市メンバーから8月6日（世界で初めて原子爆弾が投下された日）発表を目標に啓発動画を作成することを提案しました。また、感染症の拡大により2020年の未来会議ホスト市であるボルゴグラード市での未来会議が延期されたため、未来会議2019のヒロシマアピールに立ち返り、オンラインで一年間を通じて活動を共にやっていくことを提案しました。



3. 啓発動画発表会（2020年8月8日）

9か国11都市からの参加者56名によるオンライン会議で、啓発動画発表会を実施しました。発表会では、原爆死没者慰霊の意を込めて8月6日の平和記念式典で小学生が誓った“平和への誓い”を広島市参加者が英語で朗読したほか、広島市長の英語での平和宣言や同日8月6日にハノーバー市で実施された慰霊セレモニーを視聴しました。その後、完成した啓発動画を視聴し、感想を述べ合いました。さらに、どのようにすれば、広く世界の青少年に伝わるかを話し合い、これに基づき、各都市で広報に取り組むことを決定しました。



4. 各都市での啓発動画を活用した広報 (2020年9月27日)

9か国10都市からの参加者44名によるオンライン会議で、各都市での広報状況を共有したほか、広島市（※）とボルゴグラード市の活動を発表しました。

（※）原爆の子の像のモデルとなった佐々木禎子さんの甥にあたる佐々木祐滋さん（ミュージシャン）が、啓発動画に共感してくださり、自身のSNS等でシェアしていただいたことをきっかけに、佐々木さんとの交流が始まりました。禎子さんの生い立ち、闘病の様子を身内の視点から話していただきました。また、共に協力して世界平和を発信していくことを約束しました。



5. 国際フェスタでのオンライン活動報告会 (2020年11月14日)

日本語が話せる海外メンバーと協力して、未来会議の活動を紹介する動画を作成し、ハノーバー市、大邱広域市、広島市メンバーが発表しました。例年、広島市メンバーのみで発表をしていましたが、オンライン開催ということで、新しい形で取り組むことができました。



6. 佐々木祐滋さんと各都市青少年が交流 (2020年11月22日)



9か国12都市からの参加者39名によるオンライン会議で、佐々木祐滋さんを講師として招き、講演「SADAKOが遺したもの」をお話していただきました。（ハノーバー市と成都市のメンバーが進行を行い、佐々木さんの講話はハノーバー市の青少年が英語に通訳）

さらに、ミュージシャンとしての立場から語る新型コロナウイルス感染症の影響について語っていただき、各都市メンバーがコロナ禍で何が変化したか、もしくは何をチャレンジしているかをテーマに意見交換しました。

7. 各都市青少年からの2021年活動計画発表会 (2021年1月31日)



8か国9都市からの参加者41名によるオンライン会議で、各都市から9名が、次年度の平和活動のアイデアを共有し、未来会議の継続にむけ、開催形式やコンテンツを提案し、これについて小グループに分かれディスカッションを行いました。

テーマ1 2021年コロナ禍における平和のための私のアクションプラン

テーマ2 未来会議2021の構成や方法の提案

発表者

Nitcha Todumrongkul (Bangkok)

Liu Rui(Chengdu)

Xiang Jicong(Chengdu)

Isabel Ostermann(Hannover)

Ema Kurisu(Hiroshima)

Jenny Mae Ordillano Decena(Muntinlupa)

Polina Biryukova(Volgograd)

Aleksandr Malakhov(Volgograd)

Ines Lakehal(Grigny)



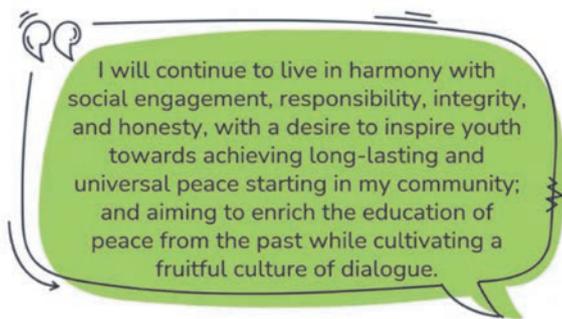
Carried on the wings of orizuru paper cranes

どうつくる？未来会議2021

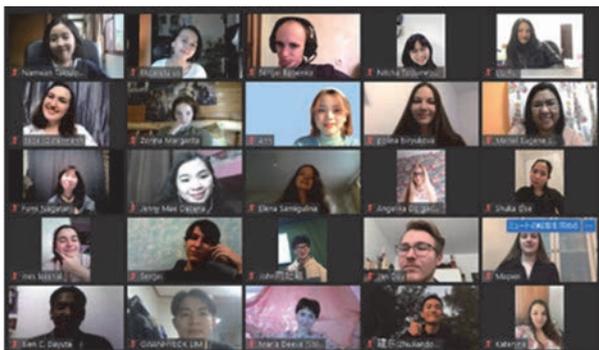
- ・会議のコーディネートを自分たちで行うことで、もう少し頻繁にオンライン会議を行うことができるのではないのでしょうか。また、世界各都市から多くの人数が集まるため、場合によってはグルーピングをして取り組むこともできると思います。



- ・個人的には、地元の学校などで写真やDVDなどを使って平和活動の紹介をしたり、折り鶴を折ったり、スカイプを使って被爆者や未来会議メンバーとの交流を行うことができるとよいです。2021年の未来会議については、引き続きオンラインで行うことになるかと思うが、スモールグループでのディスカッションを取り入れ平和活動について話し合うことができるといいです。また、昨年ビデオを作ったように、一緒に歌を歌ったりするようなプロジェクトを実施してはどうでしょうか。



- ・新型コロナウイルスの影響で実際に集まってポスター作成などができないので、オンラインアプリケーションを利用して、積極的な会議をしていきます。MiroとJamboardというアプリケーションはオンラインで使用可能なホワイトボードです。みんながリアルタイムにそれぞれのデバイスから意見を共有できます。Mentiはオンラインでマインドマップを作成したり、リアルタイムでアンケートを取ることができるアプリケーションです。これらを最大限に利用して、この新しい環境に適応していきます。



- ・オンラインだけでできる活動について、もちろん実際に顔を合わせて活動ができればとても良いのではあるが、おそらく今年もオンラインでの会議になるかと思います。オンラインワークの良いところは実際に会うことができない人も参加できることです。世界中の多くの青少年がメンバーとなることができ、広い考えを得ることができる機会となります。個人的に一つのトピックについて議論するよりはできるだけ多くのトピックについて議論をしたいと思っています。様々なトピックについて議論したのちに、会議中に印象に残ったものについてさらにリサーチして発表するのもよいし、忙しいならばリスナーになることもよいでしょう。



- ・2020年はパンデミックによりオフラインでの交流や討論などすることができず、とても残念でしたが、こういった活動は続けていくべきであると思います。2021年の未来会議については、数回のミーティングだけではなく、より継続した交流を可能にするプラットフォームを作ってみてはどうでしょうか。また、会議の中で、平和についてだけではなく、お互いの異なる文化や習慣を知り、お互いをより理解しあうような活動を取り入れてみてはどうでしょうか。



- ・未来会議は私にとっても大きな影響をあたえてくれました。例えば未来会議で得た仲間と団結できたり、親友になれたりしました。2021年は未来会議での経験を地元の友達に話したり、ほかのフォーラムや会議などの場で、私たちが考え出した内容を共有したり、ビデオ制作など一緒にできたらよいと思います。

Advantages of online events

“ungeographic”	Money	We don't have to consider travel expenses.
Continuity	We can hold event regularly.	Easiness & Convenience
		We can use convenient web tools.